

馬淵川広域河川改修事業 再評価関係資料

- 1 大規模公共事業 再評価の概要
- 2 大規模公共事業 再評価調書 等

岩手県 県土整備部

大規模公共事業再評価調書の概要

(一級河川馬淵川^{まべち}広域河川改修事業)

担当部課：県土整備部河川課

- 1 事業概要** (河川名：一級河川馬淵川、 所在市町村：二戸市、八幡平市、一戸町)
 - 事業目的： 馬淵川上流域及び安比川は、河川断面が狭小で治水安全度が低いため、たびたび家屋等の浸水被害が生じており、近年では平成 18 年、平成 23 年、平成 25 年及び令和 4 年に大規模な浸水被害が発生していることから、本事業により河川改修を行い、浸水被害を軽減することにより、安全で安心できる地域づくりに寄与するものである。
 - 事業内容：延長 L= 16,790m
築堤 V=96,800m³、掘削 V=821,200m³、護岸 A=124,700m²、橋梁 N=10 橋
 - 事業期間：H25 年度～R27 年度 (前回評価時：H25 年度～R27 年度)
 - 総事業費：7,605.1 百万円 (R6 年度までの投資額 1,532.9 百万円、進捗率 20.2%)
- 2 事業の進捗状況等**
 - 当事業は、平成 23 年 9 月、平成 25 年 9 月の大規模な浸水被害を踏まえて事業計画の見直しを行った上で、平成 29 年度に馬淵川堀野工区の河道掘削工事、令和 3 年度に安比川門崎・下藤工区の護岸・築堤工事に着手しており、順次、効果が発現している。
 - 平成 27 年 11 月には、馬淵川及び安比川について既往最大洪水に対応した河川整備に水系一体として取り組むため、地元からの意見も踏まえて「一級河川馬淵川水系馬淵川上流圏域河川整備計画 (以下「河川整備計画」という。)」を策定している。
 - 当事業区間の治水安全度について、馬淵川は県境から安比川合流点が 1/20 (20 年に 1 度程度の確率で発生すると想定されている降雨に対応)、安比川合流点から上流側が 1/30、安比川は 1/20 として河道を整備することとしている。
- 3 社会経済情勢等の変化**
 - 本県では、令和 4 年 8 月の馬淵川 (一戸町) や、令和元年 10 月の小屋畑川・沢川 (久慈市)、平成 28 年 8 月の小本川 (岩泉町)、平成 25 年 7 月の砂鉄川 (一関市)、8 月の岩崎川 (矢巾町) 及び雫石川 (雫石町) など、近年大規模な浸水被害が各地で発生しており、治水対策事業に対する関心は依然として高く、効率的・効果的な事業の推進を図る必要がある。
 - 当事業区間は、平成 23 年 9 月、平成 25 年 9 月、令和 4 年 8 月等の大雨で甚大な浸水被害を受けていることから、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元の二戸市、八幡平市、一戸町から早期改修について知事への要望が行われている。
 - ソフト施策として、県では平成 29 年度に簡易型河川監視カメラ、平成 30 年度に危機管理型水位計を整備し、ホームページで公開しているほか、平成 25 年 3 月に馬淵川、平成 26 年 7 月に安比川を水位周知河川に指定し、一定の水位を超えた際は水防管理者等に河川水位を周知し、必要に応じて報道機関の協力を求めて一般に周知するなどの対策を講じている。また、平成 30 年 9 月に馬淵川及び安比川の想定最大規模の浸水想定区域をホームページで公開し、地域住民の円滑な避難を促している。
- 4 コスト縮減対策及び代替案**
 - 河道掘削で発生した土砂を有効活用し、築堤盛土材に流用することにより、運搬費や残土処分費の抑制などコスト縮減を図っている。
 - 治水代替案としては、遊水池、ダム建設、放水路との組合せによる手法が考えられるが、流域の地形、土地利用状況、経済性等を総合的に判断した結果、河川改修による治水対策が妥当と判断している。
- 5 総合評価**
 - 馬淵川上流域及び安比川では、河川断面が狭小で治水安全度が低いため、過去にたびたび家屋等の浸水被害が生じていることから、流下能力が不足している区間の改修を実施し、浸水被害の軽減を図る必要がある。

- 「事業の進捗状況等」については、今回、事業費を変更するものの、事業計画に大幅な変更はなく、確実な竣工が見込まれることから、今後もソフト施策と一体的に事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。
- 「社会経済情勢等の変化」については、「事業に関する社会経済情勢」、「自然環境等の状況」、「事業に関する評価指標の推移」について、大きな変化はないところ。

以上のことから、総合評価は「事業継続」と評価したものである。

大規模公共事業 再評価調書

令和 6 年 5 月 29 日 作成

事業名	広域河川改修事業	補助 単独	担当部課名	県土整備部 河川課																																									
路線名等	まべちがわ 一級河川 馬淵川	地区名	きんだいち ほどさか 金田一～保戸坂	市町村 二戸市、 八幡平市、一戸町																																									
〔事業根拠法令等： 河川法 第9条 〕																																													
事業概要	(1) 事業目的																																												
	<p>○解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 馬淵川上流域及び安比川では、河川断面が狭小で治水安全度が低いため、昭和60年～令和5年にかけてたびたび家屋等の浸水被害が生じている。近年では平成18年、平成23年、平成25年及び令和4年に大規模な浸水被害が発生しており、平成25年9月洪水においてはこれまで比較的被災規模が小さかった支川安比川でも被害が発生するなど、床上78戸、床下37戸にのぼる既往最大の被害が発生した。 このことから、流下能力が不足している区間の改修を実施し、浸水被害の軽減を図る必要がある。 <p>○整備によって得られる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川改修工事を行うことにより、近年で最も浸水被害の著しい平成18年10月洪水及び平成25年9月洪水と同等規模の洪水を安全に流下させ、家屋等の浸水被害の軽減を図ることができる。 																																												
	(2) 事業内容																																												
	計画延長 L=16,790m、築堤 V=96,800m ³ 、掘削 V=821,200m ³ 、護岸 A=124,700m ² 、橋梁 N=10橋																																												
(3) 整備目標等																																													
治水安全度：馬淵川 1/20～30 (H18.10月洪水対応、H25.9月洪水対応) 安比川 1/20 (H25.9月洪水対応) [治水基準点：石切所]																																													
事業着手	H25年度	事業計画期	H25 ～ R27	今回再評価時全体計画期間 前回再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間)	用地着手	H28年度	工事着手	H29年度																																					
事業費	事業費の状況 [百万円]																																												
	当初計画 総事業費 H25年度 (うち用地費)	前回 再評価時 総事業費 R1年度 (うち用地費)	今回 再評価時 総事業費 R6年度 A (うち用地費)	H25年度～ R4年度 B	R5 年度 C	R6 年度 D	投資事業費 E=B+C+D	進捗率 F=E/A																																					
	2,393.0 (153.0)	6,983.0 (1398.0)	7,605.1 (1546.8)	1,033.3 (175.5)	173.7 (0.0)	325.9 (100.0)	1,532.9 (275.5)	財源 国庫 766.4 県 766.5 他	20.2%																																				
事業の進捗状況等	(1) 事業の進捗状況																																												
	ア 整備効果の発現状況																																												
	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に馬淵川堀野工区の河道掘削工事、令和3年度に安比川門崎・下藤工区の護岸・築堤工事に着手しており、順次、効果が発現している。 <p>イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の進捗は順調であり、計画どおりの竣工が見込まれる。 ○中項目評価は、事業の進捗が順調であり計画どおり確実な竣工が見込まれることから「a」とした。 																																												
	中項目評価 a . b . c																																												
(2) 事業計画の変更の有無及び内容																																													
<ul style="list-style-type: none"> 事業費 (6,983百万円→7,605.1百万円) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align:center;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>築堤工</td> <td>96,800m³</td> <td>166.0百万円</td> <td>96,800m³</td> <td>181.0百万円</td> <td>物価上昇増15</td> </tr> <tr> <td>掘削工</td> <td>821,200m³</td> <td>1,806.0百万円</td> <td>821,200m³</td> <td>1,960.0百万円</td> <td>物価上昇増154</td> </tr> <tr> <td>護岸工</td> <td>124,700m²</td> <td>1,623.0百万円</td> <td>124,700m²</td> <td>1,760.3百万円</td> <td>物価上昇増137.3</td> </tr> <tr> <td>橋梁工</td> <td>10橋</td> <td>1,990.0百万円</td> <td>10橋</td> <td>2,157.0百万円</td> <td>物価上昇増167</td> </tr> <tr> <td>用地補償費</td> <td></td> <td>1,398.0百万円</td> <td></td> <td>1,546.8百万円</td> <td>自然増148.8</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>6,983.0百万円</td> <td></td> <td>7,605.1百万円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					変更前		変更後		備考	築堤工	96,800m ³	166.0百万円	96,800m ³	181.0百万円	物価上昇増15	掘削工	821,200m ³	1,806.0百万円	821,200m ³	1,960.0百万円	物価上昇増154	護岸工	124,700m ²	1,623.0百万円	124,700m ²	1,760.3百万円	物価上昇増137.3	橋梁工	10橋	1,990.0百万円	10橋	2,157.0百万円	物価上昇増167	用地補償費		1,398.0百万円		1,546.8百万円	自然増148.8	合計		6,983.0百万円		7,605.1百万円	
	変更前		変更後		備考																																								
築堤工	96,800m ³	166.0百万円	96,800m ³	181.0百万円	物価上昇増15																																								
掘削工	821,200m ³	1,806.0百万円	821,200m ³	1,960.0百万円	物価上昇増154																																								
護岸工	124,700m ²	1,623.0百万円	124,700m ²	1,760.3百万円	物価上昇増137.3																																								
橋梁工	10橋	1,990.0百万円	10橋	2,157.0百万円	物価上昇増167																																								
用地補償費		1,398.0百万円		1,546.8百万円	自然増148.8																																								
合計		6,983.0百万円		7,605.1百万円																																									
<ul style="list-style-type: none"> ○中項目評価は、変更内容が施工区間の変更や主要な工事内容の変更ではなく社会的要因（労務費や資材単価の上昇）が発生するが大幅な変更でないため「b」とした。 																																													
中項目評価 a . b . c																																													
<ul style="list-style-type: none"> ○中項目評価が、「a」、「b」であることから、大項目評価は「A」とした。 																																													
評 価 AA . A . BE . B . C																																													

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

西日本を中心に被害をもたらした平成30年6、7月の集中豪雨や岩手県を含む東日本、北日本に被害をもたらした令和元年10月の台風第19号、九州地方に大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨、九州、中国地方を中心に被害をもたらした令和3年7月、8月の豪雨、東北、北陸を中心に被害をもたらした令和4年8月3日からの豪雨、九州南部を中心に被害をもたらした令和4年9月の台風第14号、東海地方を中心に被害をもたらした台風第15号など、毎年、自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けていることから、今後も着実にハード対策を進めるとともに、安全な避難等のための洪水情報等の提供の充実などソフト施策の充実を図り、災害時に避難が行われるよう住民の意識啓発に努めていく必要がある。

イ 本県内の状況

・近年、本県では、令和4年8月の馬淵川（一戸町）や、令和元年10月の小屋畑川・沢川（久慈市）、平成28年8月の小本川（岩泉町）、平成25年7月の砂鉄川（一関市）、8月の岩崎川（矢巾町）及び雫石川（雫石町）など、各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高く、効率的・効果的な事業の進捗に努める必要がある。

・県では、近年洪水被害が発生した河川や背後地に資産の集中している河川について重点的に整備を進めることとしており、過去の被災流量相当の洪水被害から地域を守ることを当面の目標として、段階的な整備により治水安全度の向上を図ることとしている。

・河川改修などのハード対策を進めているとともに、住民の迅速かつ円滑な避難を促すため、ソフト施策として水位計や河川監視カメラを設置のうえ、ホームページやメール等により洪水情報を提供しているほか、洪水浸水想定区域図の作成、市町村への洪水ハザードマップの作成支援を行っている。

ウ 施工地域における状況

・当事業区間は、平成23年9月、平成25年9月、令和4年8月等の大雨で甚大な浸水被害を受けていることから、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元の二戸市、八幡平市、一戸町から早期改修について知事への要望が行われている。ソフト施策として、県では平成29年度に簡易型河川監視カメラ、平成30年度に危機管理型水位計を整備し、ホームページで公開しているほか、平成25年3月に馬淵川、平成26年7月に安比川を水位周知河川に指定し、一定の水位を超えた際は水防管理者等に河川水位を周知し、必要に応じて報道機関の協力を求めて一般に周知するなどの対策を講じている。また、平成30年9月に馬淵川及び安比川の想定最大規模の浸水想定区域をホームページで公開し、地域住民の円滑な避難を促している。

○中項目評価は、本県内又は施工地域において議論や見直しの検討はないことから「a」とした。

中項目評価	a	b	c
-------	---	---	---

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標		配点	事業着手時 (H25年度) 評点	前回再評価時 (R1年度) 評点(A)	今回再評価時 (R6年度) 評点(B)	増減 (B)-(A)	備考
必要性	想定氾濫被害額	15	12 <small>(15億円以上30億円未満)</small>	15 <small>(30億円以上)</small>	15 <small>(30億円以上)</small>	0	138億円→142億円
	防護人口	5	3 <small>(100人以上500人未満)</small>	4 <small>(500人以上1000人未満)</small>	4 <small>(500人以上1000人未満)</small>	0	875人→747人
	公共施設・弱者施設	5	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	0	町立一戸小学校、 市立御返地小学校
	輸送施設	5	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	0	県道一戸浄法寺線等
重要性	総合計画等の位置付け	5	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	0	河川整備率
緊急性	過去10年間の 水害被害実績	5	5 <small>(10億円以上)</small>	5 <small>(10億円以上)</small>	4 <small>(5億円以上10億円未満)</small>	-1	40億円→6億円
	過去10年間の被災回数	3	3 <small>(3回以上)</small>	3 <small>(3回以上)</small>	3 <small>(3回以上)</small>	0	H26、H28、R2、R4
	他事業関連の有無	5	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	0	二戸駅周辺地区 区画整理事業
	流下能力比	2	1 <small>(50%以上)</small>	2 <small>(50%以下)</small>	2 <small>(50%以下)</small>	0	31.3%→31.3%
効率性	費用便益比(B/C)	40	25 <small>2.0 ≤ B/C < 3.0</small>	20 <small>1.0 ≤ B/C < 2.0</small>	25 <small>2.0 ≤ B/C < 3.0</small>	5	B/C=1.6→2.0
熟度	地元の要望	5	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	0	二戸市、八幡平市、 一戸町要望あり
	地元の協力	5	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	5 <small>(あり)</small>	0	
計		100	79	79	83	4	(今回/前回) 105%

※1 治水経済調査マニュアル（案）（令和6年4月）に基づき算出した結果によるもの。

○ 費用便益分析（案）

費用便益分析手法：治水経済調査マニュアル（案） 令和6年4月国土交通省河川局

（単位：百万円）

区 分		事業着手時 (基準年：H23)	前回再評価時 (基準年：H30)	今回再評価時 (基準年：R5)	備考
費用項目	建設費	1,774.0	4,438.3	5,503.0	※1
	維持管理費	199.0	512.8	630.4	※1
	総費用(C)	1,973.0	4,951.1	6,133.4	
便益項目	被害軽減の便益	4,840.0	7,836.1	12,055.2	※2
	残存価値	28.0	58.8	60.3	※2
	総便益(B)	4,868.0	7,894.9	12,115.5	
費用便益比 (B/C)		2.5	1.6	2.0	

※1 費用項目の増は、全体事業費の増と、現在価値化による。

※2 便益項目の増は、治水経済調査マニュアル（案）（令和6年4月）に基づき算出した結果によるもの。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

二戸都市計画事業新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業（二戸市、H8年度～R12年度）

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が前回再評価時の105%であることから「a」とした。

中項目評価	a	.	b	.	c
-------	---	---	---	---	---

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分

A

- ・希少野生動植物生息の有無

あり

- ・埋蔵文化財包蔵地の有無

なし

- ・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況

付議している

①主な助言内容

・事業実施にあたっては、希少野生動植物等保護検討会に諮り、有識者等の意見を取り入れて、必要に応じて現地確認や希少動植物等の対策を講じることとしているが、これまでの検討会等での意見や要望は出ていない。

②対応状況

- ・H21年度に馬淵川流域において環境調査を実施しており、魚類の遡上・降下を妨げる横断工作物等に対する縦断的な連続性への配慮や、礫や砂礫が浮き石状となる産卵環境の保全、生育環境となる瀬や淵・河畔林の保全等に努め、工事を進めていくこととしている。
- ・なお、工事着工前に有識者の意見を聴きながら環境への影響が極力低減されるよう適切に対応することとしている。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・景観等に配慮した護岸を設置した。
- 緑化ブロック積工：C=約278,000千円

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全区分に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価	a	.	b	.	c
-------	---	---	---	---	---

○中項目評価が「a」「a」「a」であることから、大項目評価は「AA」とした。

評 価	AA	.	A	.	B	.	C
-----	----	---	---	---	---	---	---

社
会
経
済
情
勢
等
の
変
化

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

- 掘削残土を築堤盛土に流用することで運搬費や残土処分費の抑制などコストの低減を図る。
C = 約426百万円

(2) 代替案立案の可能性

- ① 代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果
次の案と比較検討した結果、次の理由から現計画を適用したものである。
- 治水ダム案 必要容量を確保でき、かつダム高や堤長が効率的となる適地がない。
 - 遊水池案 谷底平野を流れる河川であり、河川沿いに必要容量を確保できる適地がない。
 - 放水路案 浸水被害箇所が点在しており複数個所に設置する必要があるため効率が悪い。
周辺地盤にも岩が多い可能性があり、掘削に時間と費用を要する。
- これらを総合的に勘案し、現在の河川改修案を選定しているものである。
- ② 今後における代替案立案の可能性
現時点で技術革新や社会経済情勢の大きな変化はないため、代替案立案の可能性は低い。

(1) 総合評価

総合評価 (対応方針案)	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">事業継続</div>	要検討	中止
(事業継続、見直し継続、休止、中止)			

(事業名) 一級河川馬淵川広域河川改修事業

着手年度	完了予定年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1) 事業進捗状況		(2) 社会経済情勢			参考			
					進捗状況	計画変更	社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C		
H25	R27	7,605.1	1,532.9	20.2	A	a	b	AA	a	a	a	83	2.0

○総合評価に係るコメント

- 馬淵川上流域及び安比川では、河川断面が狭小で治水安全度が低いため、過去にたびたび家屋等の浸水被害が生じていることから、流下能力が不足している区間の改修を実施し、浸水被害の軽減を図る必要がある。
- 「事業の進捗状況等」については、今回、事業費を変更するものの、事業計画に大幅な変更はなく、確実な竣工が見込まれることから、今後もソフト施策と一体的に事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。
- 「社会経済情勢等の変化」については、「事業に関する社会経済情勢」、「自然環境等の状況」、「事業に関する評価指標の推移」について、大きな変化はないところ。

以上のことから、総合評価は「事業継続」とした。

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

大規模公共事業 再評価調書 (付表)

事業名	広域河川改修事業	補助・単独	担当部課名	県土整備部 河川課
路線名等	まべちがわ 一級河川 馬淵川	地区名	きんだいち ほどさか 金田一～保戸坂	市町村 二戸市、 八幡平市、一戸町

1 現在までの事業の経緯等

- H24年度 公共事業事前評価
- H25年度 広域河川改修事業着手
- H25年度 9月に大規模な浸水被害が発生
- H26年度 公共事業随時再評価 (平成25年9月の大規模な洪水により浸水した区間を事業区域として追加)
- H27年度 一級河川馬淵川水系馬淵川上流圏域河川整備計画を策定
- R1年度 大規模事業随時再評価 (河川整備計画に基づき整備区間内の工区を追加)
- R4年度 8月に大規模な浸水被害が発生
- R6年度 大規模公共事業再評価

2 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化の具体的説明

再評価調書に記載のとおり

3 費用便益分析の詳細(算定方法、算出根拠等)

算出根拠: 治水経済調査マニュアル(案) 令和6年4月 国土交通省河川局 (単位: 百万円)

区 分		事業着手時 (基準年: H23)	前回再評価時 (基準年: H30)	今回再評価時 (基準年: R5)	残事業B/C
費用項目	①建設費	(A) 1,774.0	(H) 4,438.3	(O) 5,503.0	4,203.1
	②維持管理費	(B) 199.0	(I) 512.8	(P) 630.4	480.7
	③総費用 (C) ①+②	(C) 1,973.0	(J) 4,951.1	(Q) 6,133.4	4,683.8
便益項目	④被害軽減の便益	(D) 4,840.0	(K) 7,836.1	(R) 12,053.0	9,732.7
	⑤残存価値	(E) 28.0	(L) 58.8	(S) 60.0	76.4
	⑥総便益 (B) ④+⑤	(F) 4,868.0	(M) 7,894.9	(T) 12,113.0	9,809.1
		(G) 2.5	(N) 1.6	(U) 2.0	2.1

- ①建設費: 施設整備に要する費用(河川改修費)を整備期間、評価期間で現在価値化して合計したものである。基準年以前の費用は、物価変動を考慮した実質価値に換算した後に現在価値化している。
- ②維持管理費: 毎年定常的に支出される除草等の費用で、近年の実績費用から想定される毎年の平均値を現在価値化して合計したものである。
- ④被害軽減の便益: 施設整備によって想定される年平均被害軽減額を現在価値化して合計したものである。
- ⑤残存価値: 評価対象期間終了時点における施設等の価値。構造物は価値を10%とし、構造物以外(堤防・用地など)は減価しないものとしている。

4 環境対策の具体的内容

再評価調書に記載のとおり

5 代替案(見直し案)の検討内容

再評価調書に記載のとおり

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断面図等を添付のこと。

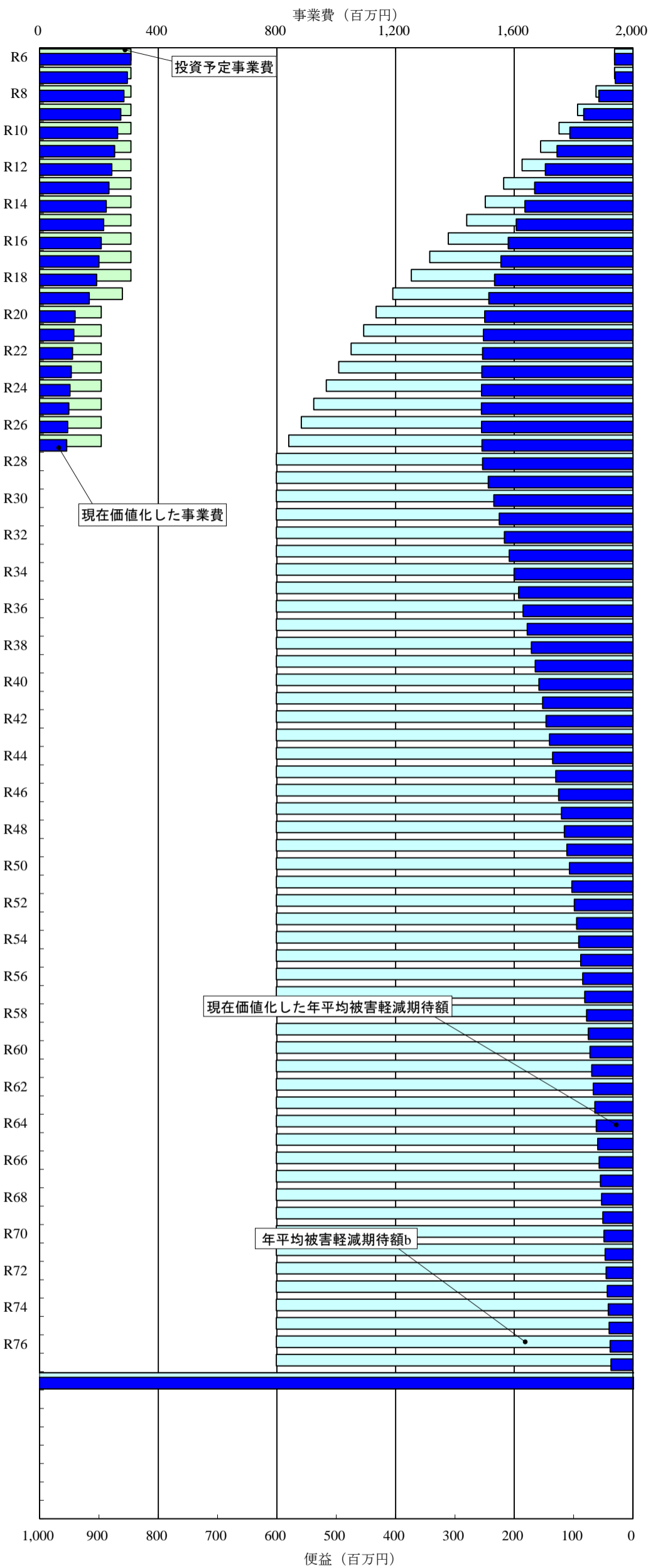
費用対効果計算書 (令和5年度評価)

水系名：馬淵川水系

河川名：馬淵川および安比川

単位：百万円

期間	年度 t	便益		費用							
		年平均被害軽減期待額 b	年便益	建設費	費用	現在価値	治水事業費指数	デフレーター換算	維持管理費	費用	現在価値
整備期間	0	R6	31.1	31.1	307.7	307.7	112.9	100.0	1.5	1.5	
	1	R7	31.1	29.9	307.7	295.9			1.5	1.5	
	2	R8	62.3	57.6	307.7	284.5			3.1	2.8	
	3	R9	93.4	83.0	307.7	273.6			4.6	4.1	
	4	R10	124.5	106.4	307.7	263.0			6.2	5.3	
	5	R11	155.6	127.9	307.7	252.9			7.7	6.3	
	6	R12	186.8	147.6	307.7	243.2			9.2	7.3	
	7	R13	217.9	165.6	307.7	233.8			10.8	8.2	
	8	R14	249.0	182.0	307.7	224.8			12.3	9.0	
	9	R15	280.2	196.8	307.7	216.2			13.8	9.7	
	10	R16	311.3	210.3	307.7	207.9			15.4	10.4	
	11	R17	342.4	222.4	307.7	199.9			16.9	11.0	
	12	R18	373.5	233.3	307.7	192.2			18.5	11.5	
	13	R19	404.7	243.0	279.0	167.6			20.0	12.0	
	14	R20	432.9	250.0	207.7	120.0			21.4	12.4	
	15	R21	453.9	252.0	207.7	115.3			22.4	12.5	
	16	R22	474.9	253.6	207.7	110.9			23.5	12.5	
	17	R23	495.9	254.6	207.7	106.6			24.5	12.6	
	18	R24	516.9	255.2	207.7	102.5			25.6	12.6	
	19	R25	538.0	255.3	207.7	98.6			26.6	12.6	
	20	R26	559.0	255.1	207.7	94.8			27.6	12.6	
21	R27	580.0	254.5	207.7	91.2			28.7	12.6		
施設完成後の評価期間 50年	22	R28	601.0	253.6					29.7	12.5	
	23	R29	601.0	243.8					29.7	12.1	
	24	R30	601.0	234.5					29.7	11.6	
	25	R31	601.0	225.4					29.7	11.1	
	26	R32	601.0	216.8					29.7	10.7	
	27	R33	601.0	208.4					29.7	10.3	
	28	R34	601.0	200.4					29.7	9.9	
	29	R35	601.0	192.7					29.7	9.5	
	30	R36	601.0	185.3					29.7	9.2	
	31	R37	601.0	178.2					29.7	8.8	
	32	R38	601.0	171.3					29.7	8.5	
	33	R39	601.0	164.7					29.7	8.1	
	34	R40	601.0	158.4					29.7	7.8	
	35	R41	601.0	152.3					29.7	7.5	
	36	R42	601.0	146.4					29.7	7.2	
	37	R43	601.0	140.8					29.7	7.0	
	38	R44	601.0	135.4					29.7	6.7	
	39	R45	601.0	130.2					29.7	6.4	
	40	R46	601.0	125.2					29.7	6.2	
	41	R47	601.0	120.4					29.7	5.9	
	42	R48	601.0	115.7					29.7	5.7	
	43	R49	601.0	111.3					29.7	5.5	
	44	R50	601.0	107.0					29.7	5.3	
	45	R51	601.0	102.9					29.7	5.1	
	46	R52	601.0	98.9					29.7	4.9	
	47	R53	601.0	95.1					29.7	4.7	
	48	R54	601.0	91.5					29.7	4.5	
	49	R55	601.0	88.0					29.7	4.3	
	50	R56	601.0	84.6					29.7	4.2	
	51	R57	601.0	81.3					29.7	4.0	
	52	R58	601.0	78.2					29.7	3.9	
	53	R59	601.0	75.2					29.7	3.7	
	54	R60	601.0	72.3					29.7	3.6	
	55	R61	601.0	69.5					29.7	3.4	
	56	R62	601.0	66.8					29.7	3.3	
	57	R63	601.0	64.3					29.7	3.2	
	58	R64	601.0	61.8					29.7	3.1	
	59	R65	601.0	59.4					29.7	2.9	
	60	R66	601.0	57.1					29.7	2.8	
	61	R67	601.0	54.9					29.7	2.7	
	62	R68	601.0	52.8					29.7	2.6	
	63	R69	601.0	50.8					29.7	2.5	
	64	R70	601.0	48.8					29.7	2.4	
	65	R71	601.0	47.0					29.7	2.3	
	66	R72	601.0	45.2					29.7	2.2	
	67	R73	601.0	43.4					29.7	2.1	
	68	R74	601.0	41.7					29.7	2.1	
	69	R75	601.0	40.1					29.7	2.0	
	70	R76	601.0	38.6					29.7	1.9	
	71	R77	601.0	37.1					29.7	1.8	
合計			36,965	9,732.7	5,941.2	4,203.1				480.7	



年平均被害軽減期待額 b 601.0 百万円

便益 9,733 百万円 = (R)

残存価値 76.4 百万円 = (S)

築堤等 39.3 百万円 = (築堤等の総費用) / (1+0.04)^{s+49} = 636 / (1+0.04)⁷¹ s: 整備期間

護岸等構造物 6.8 百万円 = (護岸等構造物の総費用) × 0.1 / (1+0.04)^{s+49} = 1106 × 0.1 / (1+0.04)⁷¹ s: 整備期間

用地費 30.3 百万円 = (用地費の総費用) / (1+0.04)^{s+49} = 490 / (1+0.04)⁷¹ s: 整備期間

総便益 B 9,809 百万円 = (T) = (R) + (S)

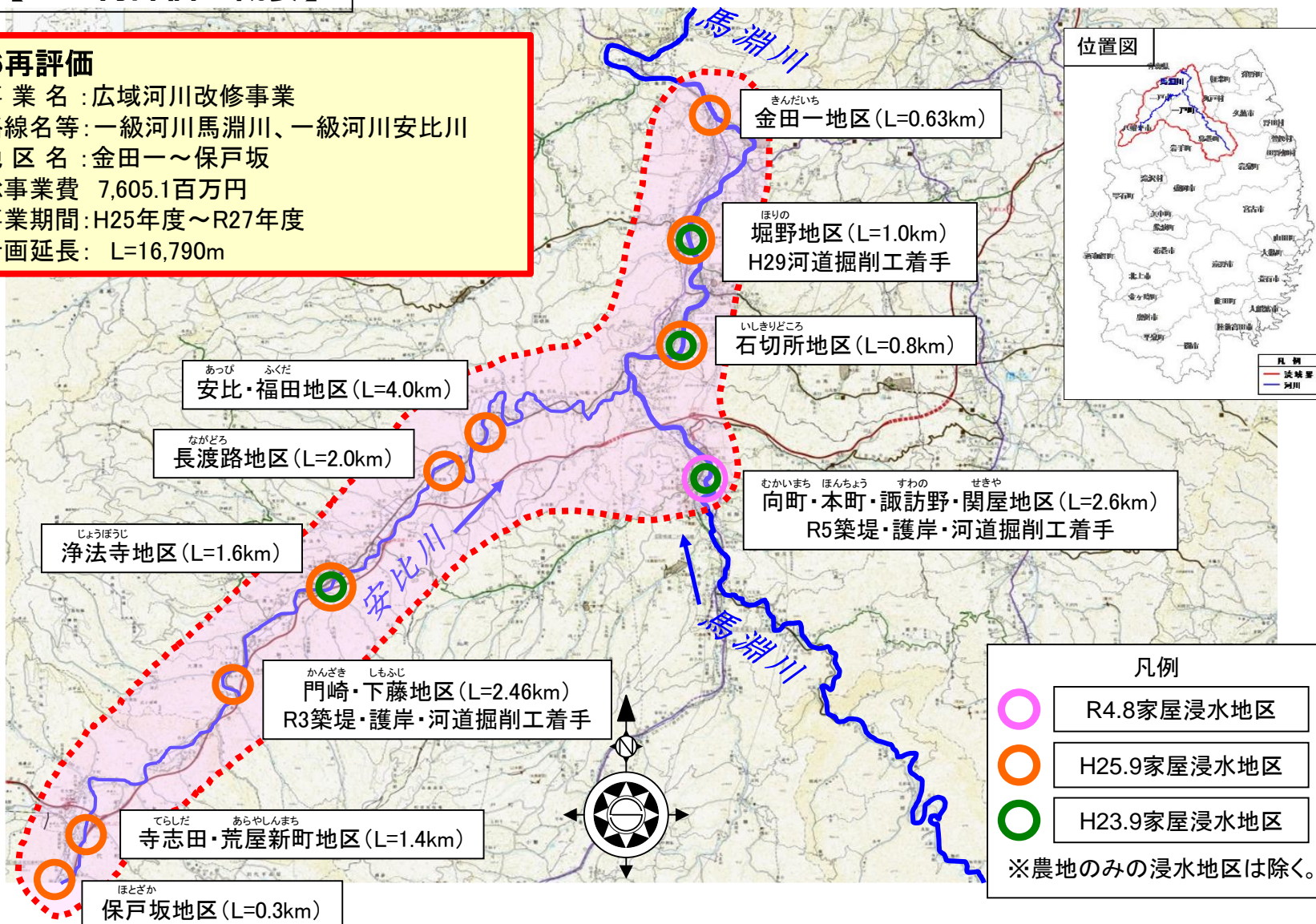
総事業費 C 4,683.8 百万円 = (Q) = (O) + (P)

$B/C = 2.09 = (U)$

【R6再評価の概要】

R6再評価

事業名：広域河川改修事業
 路線名等：一級河川馬淵川、一級河川安比川
 地区名：金田一～保戸坂
 総事業費 7,605.1百万円
 事業期間：H25年度～R27年度
 計画延長：L=16,790m



向町・本町・諏訪野・関屋地区

全体計画延長 L=2.6km

万代橋

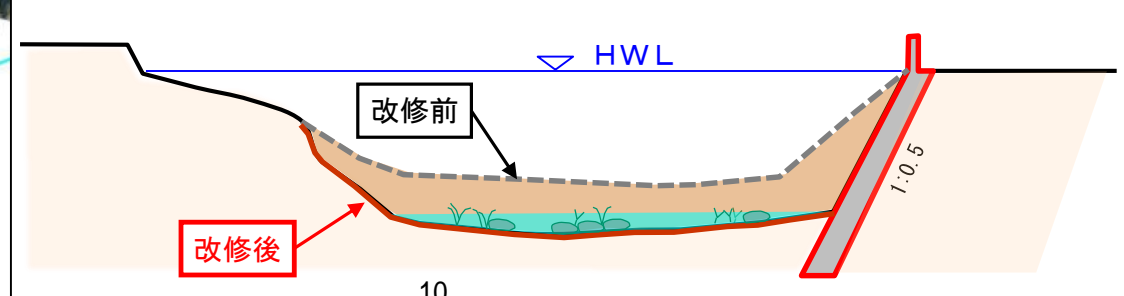
中田橋

A-A

令和4年8月洪水時の状況



A-A断面(イメージ)



岩手県県土整備部	
一級河川 馬淵川	一戸町管内
全 枝ノ中	全体平面図(2)
令 和	年 度
工 事	
縮 尺	1:1,000